

YU 夢 ME

茶道は最も深遠にして、奥深く幅広い文化的内容を抱合して、茶の道が日本人の日常生活文化の規範となつてからも既に五百年の星霜を経ている。我が国に茶が伝来したのは明確には分らないが、遣唐僧等により最澄が唐から持ち帰ったものを



入居者
田中 和子



植えたとされる近江の坂本の茶園は、我が国最古のものとして知られる。それから京都府の宇治に植えられている。

その後、宋から帰朝した臨済宗の禅僧栄西によつて、抹茶を伝えたのである。宋代抹茶法を中心とする園茶指導が鎌倉末期に伝わり、それが次第に和様化され、更に洗練されて室町中期の東山時代に茶道と称する園粋な茶道が成立し、それを近世初期、桃山時代に千利休によって大成された。

茶道は茶園、茶室、賭物、調度、

茶の道を提唱したのは珠光である。武野紹鷗に帰事し、侘び、さび、の極地には千利休によって大成した。千利休の次男、小庵の子三代元伯宗旦が後年今日庵裏千家、宗旦の三男宗左は不審庵表千家、宗旦の子次男宗守が官休庵武者小路とそれぞれ茶名を世襲し、三千家の家元となる。外各流派の家元がある。

立礼式は、裏千家十一代元元斎精中が明治五年、京都に於いての万国博覧館で、外国人客が多く来日する事を予想して考案された。

もくじ

茶の湯……………	1
短歌・「二生ゴルフ!!」……………	2
名実ともに長寿園……………	2
長寿園の日々……………	3
川柳・敬老週間作品展……………	3
うめまる号・編集後記……………	4

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき、高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことによつて社会に貢献します。

【発行所】
一般財団法人 長寿会
小田原市入生田475
TEL.0465-24-0002(代)
発行人/加藤 伸一
編集/「夢」編集委員会

露地に入るより、出る迄を「一期一会」ありたしと論している。浅学非才でなかなか難しいが「和」をもって接し度、心して

おります。長寿園に入居しても茶会があるので楽しんでおります。

短歌

箱根山あぢさいの花風にゆれ

鈴木 芳子

車窓華やぐひと、き楽し

今朝とれし網曳き浜の鮫もとむ

皿の魚ははねて新らし

松本 正子

補聴器へ球児のヒット飛びこめば

その快音に思わず拍手

ドッコイショ立ち振る舞いに出る声は

母と同じと想うこの頃

小池 怜子

小田原の入生田歩くハルキスト

森の木々にも想いを馳せて

金太郎産湯つかった伝説の夕日の滝は新緑に映え



堀口 巧様

堀口様もゴルフ仲間も、お互い年を重ね、週二回で楽しんできたゴルフは、入居してから週一回のペースで行っておられるとの事。無理することなく年相応に、いやいや、年齢よりも若々しく自分らしい生活を過ごされているようです。

ゴルフ歴は四〇年におよび、とても元気な八三歳の堀口様です。



名実ともに長寿園

理事長 加藤 伸一

長寿園ご入居者の平均年齢は男性八六歳女性八七歳です。男女比は三対一です。日本人の平均寿命は女性が八七歳で男性が八二歳ですので長寿園の男性がいかにご長寿かがわかります。そして皆様とても活動的でお元気です。もちろん女性もそれ以上。

二〇年ほど前には当時の新設ホームが流行のようにみなカタカナ名称をつけたために(今でもそうですが)入居希望者から長寿園というのは名前がいかに古臭いと言われたものでした。ところが、現在では逆にこの名前がいいと評価のお声も聞かれています。かえって新鮮なのでしょうか。長寿園のご入居者を拝見していると皆様ほとんどが八〇歳代と九〇歳代ですがとてもお元気でまるで年齢がわからなくなります。名実ともに長寿の園です。

長寿園の日々

コーラス会・
器楽の会共に今回は
バイオリンと共演だったので
新鮮で良かった。



敬老週間
九月一日クラブ活動発表会
一四日歌を楽しむ夕べ
一七日祝賀式典
会食
アトラクション
二四日お月見会

クラブ活動発表会



よまこいは知って
居る職員さんがいたの
で楽しかった



歌を楽しむ夕べ



書道の方々は
上達しているように
感じました。



お月見会



先生の衣装も
歌もとても
素敵で楽しめた。



最高。素晴らしい。目覚め。何とも言えない。思い出のある曲ばかりで全部良かった。



式典

今回敬老週間実行委員に、初めて参加させていただきました。前回の敬老週間の時は夜勤が多く、あまり参加出来ていなかったのですが、どのような催しが行われているのか把握できていませんでした。また、今回の敬老週間は式典でのお食事が二会場で行われるなど初めてのことがあり、不安がありました。ですが、他のスタッフの皆様のおかげもあり、何とか敬老週間を乗り切れました。C棟のご入居者の方々から「楽しかったよ。また来年も歌を楽しむ夕べに行きたいね。」等のお話をいただいたので、ご満足いただけたのではないかと思います。今回の委員会には貴重な体験になりました。



生活課 中野ヘルパー

川柳

松本 正子

梅干しと仁丹ともに九十路

長生きへ古傷確とお供する

田中 和子

痛快な穿ち川柳欄が好き

湯上りの月見独りの酒を酌む

小池 怜子

古写真胡麻みそずいが

聞こえそう

霧深い山が息する水墨画

田川 富子

行楽の車中からもう皆スマホ

鯉泳ぐ形の雲に兄偲ぶ



敬老週間作品展 《作品介绍》



盆栽
手嶋 清四郎様
長寿園周辺で集めた小さな芽を一〇〜一三年かけこの作品を作られたそうです。

陶芸
原田 早苗様
長寿園で行っている陶芸教室で作品を作りました。

絵画
粕谷 ツヤ子様
「デイトイムの小田原漁港」は8月の小田原漁港を三週間かけ透明絵の具を使い、水面は面相筆で描かれております。

右から田川 富子様・松本 正子様・田中 和子様・青木 千代様・小池 怜子様
小池様がレイアウトして下さいました。お題を決め毎回楽しみながら作成しているそうです。

編集後記

秋の日は鶴瓶落としという通り、あっという間に日が暮れるようになりましたね。旬の食材が魅力的な秋の味覚を堪能し、スポーツで汗をかき、読書に没頭し...と、色々な秋を満喫できると良いですね。皆さんは秋と言ったらなにを思い浮かべますか？

うめまる号

「うめまる号」とは

小田原の歴史やグルメ等の観光名所を回遊するバスのごことで、運行は春夏秋冬の三シーズンの土・日・祝日に限ります。小田原駅東口一番乗り場が始発となり、一夜城歴史公園や小田原漁港、小田原おでん前など、停留所は全部で一五ヶ所となります、どの停留所からも乗り降りができます。運行時間は一回遊が五〇分、一日一便運行しています。乗車証バッジがあれば、シーズン中は乗り放題です。バッジは大人一名五〇〇円で購入でき、協力施設や協力店での特権が受けられるとの事です。

バスの目印としては、箱根登山バスの前面に「うめまる号」と書かれた旗が取り付けられています。ちよつと小田原を知ってみたいという方は、ご利用してみたいかがでしょうか。

